地域への貢献と信頼構築で水田経営面積を拡大
～米の直接販売等により次代へ継承できる経営を実現～

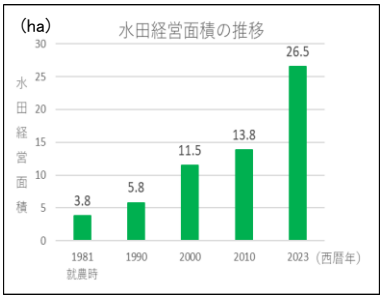
土田治夫・土田民子（酒田市）

１　受賞者の概要

・経営品目：水稲26ha（主食用15.5ha、飼料用10.5ha）
　　にんにく0.5ha
・役　　職：山形県指導農業士
　　酒田市農業委員会会長職務代理者
　　庄内みどり農協園芸部会長（治夫氏）
　　庄内みどり農協平田地区青申会指導係（民子氏）

２　特色ある活動

(1) 地域との信頼構築で水田経営面積を拡大



治夫氏は、借受農地について地主が安心できるよう丁寧な管理を心掛けてきており、その結果、現在の水田経営面積は2010年に比較して約13ha拡大し、約27haとなった。また、農地の連担化が進むよう、自分が借地した水田を、場合によってはその水田に近い担い手農業者に紹介する等して、水田の集約を進めてきた。

(2) 米の直接販売により安定した経営を実現

食糧管理法が改正された平成３年から米の直接販売に取り組んだ。その後、宅配米がブームになる中、価格競争に巻き込まれないよう顧客満足度を重視し、平成15年から毎月欠かさず「土田農場だより」を作成し、地域と季節の情報を米と一緒に届けている。これら努力の結果、米の直接販売を行う顧客数は増加し、現在は米穀業者４社・中食・外食業者にも米を販売するようになり、米の価格を自分で決められる有利販売が定着している。

(3) 地域の新規就農者育成の取組み

県指導農業士・市農業委員として新規就農者の育成に尽力してきた。令和元年に平田地区で稲作経営を始めたいという新規参入者に対して、農地を斡旋し、農業のあり方について指導してきた。その結果、この新規参入者は水田経営面積を大幅に拡大することができた。

(4) 食育活動と社会貢献の取組み

治夫氏は30年間、地元小学校の田植え・稲刈り体験を指導してきた。これまで1,300人以上の児童が体験を行い、児童たちの食に対する考え方も変わってきた。31年目になる今年は、体験指導を息子にバトンタッチしている。

また、５年前から酒田市との友好都市である東京都武蔵野市の子供食堂に毎月24kgの米を無償提供し、社会貢献と米のＰＲに結び付けている。

３　今後の発展方向

治夫氏は、60歳を前に親子間の経営継承について考え始め、中小企業診断士から親子で指導を受け、事業継承計画を作成した。

事業継承計画では、令和７年に経営継承を行い、水田経営面積を当面30ha程度に拡大し、法人化を検討することとしている。これから経営継承までの２年間で、継承後も経営が持続的に発展できるよう、後継者に技術・財産・情報・顧客・人との繋がり等を引き継いでいきたいと考えている。